

この4月に埼玉県立大学の学長に就任した萱場一則です。地域の皆様には日ごろから本学の教育・研究にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。さて、本学は陶冶、進取、創発を基本理念として、保健医療福祉の教育・研究の中核となつて地域社会に貢献することを目指しています。今回から始まるこのコーナーでは、研究などで蓄積した耳寄りな健康情報を、本学の教員がリー方式で皆様にお届けします。第1回は健診の話です。

健診を賢く利用して

なんだか疲れやすい、よく眠れない、食欲がわかないなど、体調が悪いので健康診断、いわゆる健診や人間ドックを受けた、という話を聞くことがあります。健診やドックならば体の隅々まで見てもらえる、と勘違いされたようです。健診と医師が行う診断は違います。

健診は、多くの人の中から「ある病気になるやすそうな人」や「がんなどの病気があ

県立大発!
耳より
健康
情報

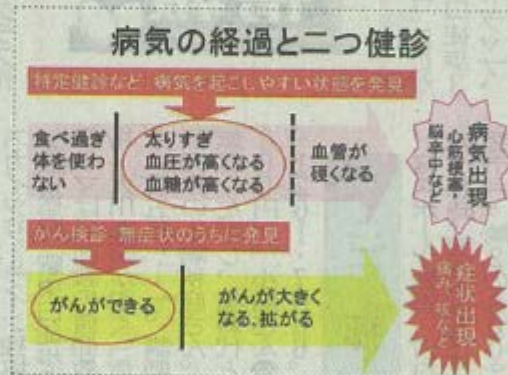


<1>

埼玉県立大学学長 萱場 一則

「なんかが疑わしい人」を選ぶことができます。それに対し診断は、医師が「ある人に特定の病気があるかないか」を見極めます。一般的には診断の方が、お金や人手が格段にかかります。

世の中では様々な健診が行われています。特定健診やがん検診などの法律に基づいて国民健康保険や協会けんぽなどの保険者が行うものや、人間ドックなどの医療機関などが提供するもの等、様々です。健診項目も、問診と診察、身長、体重、腹囲、血圧、尿検査などは同じですが、血液検査には、健診によ



「病気が疑わしい人」を選びます

様々な健診の目的は基本的には二つです。一つは、がん、心臓病、脳卒中につながる生活習慣やメタボなどの体の変化を見つけ出すことです。喫煙者や、血圧や血糖値が高い人は、今はなんともなくても将来病気になるやすく、それを下げると病気になるにくくなります。

健診結果を踏まえて生活習慣、つまり食事と体の動かし方を変えることを目指します。それができない、あるいは不十分な場合は薬による治療も必要となります。もしあなたが喫煙者ならば、禁煙は何者にも勝る対策です。

もう一つの健診である、がん検診の場合はちょっと事情が違います。症状がないうちにがんを発見し、治療することを目指します。早期発見早期治療です。がんの治療では、内視鏡治療、抗がん剤や放射線療法などの著しい進歩があります。しかしながら、健診の重要性は未だに変わりません。

健診の仕組みを理解して、賢く利用しましょう。